

製品名: FGFR-4 ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab10950

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	85kDa

抗原情報

遺伝子名	FGFR4
別名	FGFR4; JTK2; TKF; Fibroblast growth factor receptor 4; FGFR-4; CD334
遺伝子 ID	2264.0
SwissProt ID	P22455
免疫原	抗血清は、ヒト FGFR4 の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 91-140

背景

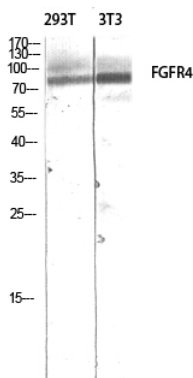
この遺伝子によってコードされるタンパク質は線維芽細胞増殖因子受容体ファミリーのメンバーであり、アミノ酸配列はメンバー間

および進化を通じて高度に保存されています。FGFR ファミリーのメンバーは、リガンド親和性と組織分布において互いに異なります。代表的な全長タンパク質は、3つの免疫グロブリン様ドメイン、1つの疎水性膜貫通セグメント、および細胞質チロシンキナーゼドメインからなる細胞外領域で構成されます。このタンパク質の細胞外部分は線維芽細胞増殖因子と相互作用し、下流のシグナル伝達経路を活性化させ、最終的には有糸分裂誘発と分化に影響を与えます。この遺伝子のゲノム構成は、メンバー 1~3 と比較して、19 や 20 ではなく 18 のエクソンを包含します。選択的スプライシングが観察されていますが、IgII 触媒活性の C 末端側半分が ATP + a [protein]-L-チロシン = ADP + a [protein]-L-チロシン リン酸であるという証拠はありません。機能:酸性線維芽細胞成長因子の受容体。塩基性線維芽細胞成長因子には結合しません。FGF19 に結合します。PTM:グリコシル化されています (類似性による)。チロシン残基がリン酸化されています (類似性による)。リン酸化には機能的 (リン酸化) FGFR1 の存在が必要であり、必ずしも FGFR ヘテロ二量体化によるものではありません。類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。Tyr タンパク質キナーゼファミリー。線維芽細胞増殖因子受容体サブファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。類似性: 3つのIg様C2型 (免疫グロブリン様) ドメインを含む。細胞内局在: アイソフォーム 2 は分泌される可能性がある。サブユニット: KLB と相互作用する。組織特異性: 消化管上皮細胞、膵臓、胃癌および膵臓癌細胞株で発現する。、

研究分野

MAPK_ERK_Growth;MAPK_G_Protein;エンドサイトーシス;アクチンと細胞骨格を制御します。

画像データ



FGFR4 抗体を用いた 293T 3T3 の溶解のウェスタンブロット解析。抗体は 1:500 に希釈し、二次抗体は 1:20000 に希釈した。